

ゼミ紹介
渡邊 恵一

渡邊 恵一教授 (日本経済史 担当)

このゼミでは、日本の経済・経営・産業を、歴史的視点から研究しています。概説書や専門書のレポート&ディスカッションという基本的な学習を進める一方、学生自身がアイデアを持ち寄って決めた独自の研究テーマにも取り組んでいます。その研究成果を発表する場となっているのが、毎年、他大学の日本経済史・日本経営史ゼミと合同で開催しているインターゼミです。

2014年度のインターゼミは、駒澤大学が当番校を担当しました。年末の12月20日、明治大学、立教大学、高千穂大学の教員と学生を1号館402教場に迎え、終日にわたって各ゼミの研究発表と質疑応答が行われました。当ゼミが選んだ今年度のテーマは、「高度経済成長期の『衣・食・住』」です。巷間言われるような華やかな変化ではなく、当時の人々の生活に密接した緩やかな、しかし後の時代からみれば決定的な変化を追ってみようというのがその趣旨です。「衣・食・住」に対応させる形で準備した報告は、「消費者嗜好の多様化とアパレル産業の発展」、「『外食』の変遷と展望」、「高度成長期における住環境と家族の変遷—耐久消費財の普及率と関連づけて—」の3本でした。

研究をまとめる過程では、もちろん一通りの助言や指導をしています。インターゼミ当日は、もはや手を差し伸べることができません。他大学の教員からも、容赦のない質問が出されます。私の力不足を痛感させられる場面もありますが、その一方で、当ゼミの学生が当意即妙の受け応えをしたり、普段はお目にかかれない(?)鋭い質問を投げかけたりすることもあります。箱庭のようなキャンパスにいる「駒大生」ではなく、「大学生」としての彼ら、彼女らが姿をあらわす瞬間です。

夕方からは学食を貸し切り、立食パーティー形式の懇親会で盛り上がりました。経済学部で歴史を学ぶゼミは、どの大学でも少数派ですが、こうした交流を通じて学生は自分たちが決して「特殊なゼミ」ではなかったことに気づきます。インターゼミへの参加は、学生にとっても教員にとっても決して楽なことではありませんが、研究の面白さや奥深さを肌で感じることのできる貴重な機会となっています。

